

令和3年度

社会福祉法人 佐呂間町社会福祉協議会 事業報告

■ 総 括

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症により、一昨年に続き予定した事業のほとんどが実施できず、閉塞感に苛まれた年となりました。

そのため当初計画しておりました福祉事業について、事業の中止や縮小転換などを余儀なくされ、第5期佐呂間町地域福祉実践計画についても、計画推進に係る事業展開は一部事業の実施に留まり、コロナ禍における事業推進に課題を残すことになりました。

令和3年度、本会の運営と事業活動に要した費用は、9会計を合わせて、収入総額 75,184,826 円となり、支出総額は 72,012,666 円で、収支差額 3,172,160 円の決算額となっております。

収入では、町からの補助金・受託金収入が、合計 60,540,793 円となり、全体の 80.5%を占めております。

その中でも町民と事業所からの会費合計 2,275,400 円及び寄附金の 3,134,775 円につきましては、地域福祉推進事業の財源として活用させていただき、当初計画していた事業をすべて実施いたしました。

佐呂間町の人口は、令和4年3月末日現在、4,786人(男2,268人・女2,518人)、65歳以上の高齢者が1,903人で、高齢化率は39.7%となり、高齢化率の上昇においては「人口減少による過疎化の進行」「少子高齢化による高齢者人口の比率増加」が顕著となり、今後社会福祉の分野でも様々な取り組みが求められます。

これらの現状を踏まえた中で、社会福祉協議会が地域福祉の担い手として機能を発揮するためには、一人暮らし高齢者や要援護者の見守り事業を推進し孤立の解消に取り組むと同時に、子育て世帯に向けた講座開催や家計支援となるバザー開催を支援し、人口減少対策の一助となる支援事業を進めることが重要と考えます。

社会福祉協議会は、地域住民や組織と連携しながら安定的で発展性のある組織運営の実現に向けて、地域福祉実践計画の基本理念である「誰もが幸せ感じる福祉を求めて」に基づき、地域住民が主体的に関わり、地域の福祉力を高め支え合える社会の構築に努めて参ります。

令和3年度佐呂間町社会福祉協議会事業実績書

第5期佐呂間町地域福祉実践計画の初年度として基本理念『誰もが幸せ感じる福祉を求めて』の具現化を目指し、地域福祉の充実を図りました。

■重点推進項目別内訳

1. みんながつながり支え合う地域づくりの推進

1) 地域に根ざした「つながり」の機会と場所の確保

①ふれあいサロン事業等の運営支援と協力

- ・サロンおひさま、若佐ふれあい会への助成と支援を実施

②ふれあい広場2021サロマの開催

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

③第13回ふれあいチャリティステージ

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

④第23回かまくら雪まつりの開催支援

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

⑤キャンドルナイト事業の実施

- ・アイスキャンドル用ろうそく配付 528本

2) 地区たすけあいチームの育成と活動支援

①社協との連携を強化するための情報の共有と新規事業等の提案

- ・17自治会内のたすけあいチームの活動内容の把握と、自治会長会議などでの情報提供
- ・地域の福祉問題、生活課題などの意見を反映した活動支援への取組自治会福祉推進活動助成金の交付 578,400円
- ・冬期間の地域内除雪体制の整備
除雪依頼等での当該たすけあいチームとの連絡調整

3) ボランティア活動の推進

①社会福祉体験事業の推進とボランティア指定校への活動支援

- ・ボランティア指定校助成金 150,000円(3校)
- ・福祉体験学習実施への協力
- ②ボランティア連絡協議会との連携と保険加入促進
 - ・加盟団体(38団体)、ボランティア保険加入(598名)
 - ・ボランティア交流会(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)
- ③企業等の地域貢献活動との連携
 - ・各種イベントへの参加・協賛等の協力依頼
- ④ボランティア活動への参加促進
 - ・全道・管内で開催したボランティア研修への参加(中止)
- ⑤住民活動支援の促進
 - ・サロン等の事業協力

2. 福祉問題・生活課題を解決するための仕組みづくり

1) 社会福祉、社協サービスについての情報提供

①在宅福祉各種サービス

- ・給食宅配 1,030食
- ・紙おむつ支給：年2回半年分ごと配付 配付数 延70名
- ・ふれあい郵便 民生児童委員の協力により毎月配付 対象219名

②ひとり暮らし高齢者福祉事業

- ・在宅ひとり暮らし高齢者の集い(弁当配付事業に変更)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、参集型で開催せず、代替事業として弁当配付事業を実施

年2回(日赤奉仕団との共催、社協独自実施を各1回) 延378食配付

- ・除雪サービス(高齢者人材センター及びたすけあいチームと連携)

③子育て支援事業

- ・子育てグッズレンタル事業 28台レンタル中
- ・子育てバザー事業(開催支援) 2回開催 231名来場

④相談支援体制(心配ごと・消費生活・障がい者自立支援等)

- ・助言に留まらず、斡旋対応など、住民要望に即した相談支援を実施

⑤共同募金事業 地域イベントでの募金活動、赤い羽根、歳末たすけあい

⑥地域老人施設整備費助成（地域公民館等の備品整備）

・限度額：160,000円（8割助成）

※令和3年度 西中央自治会に助成

⑦福祉関係団体の育成・支援

・17団体 1,182,000円

老連、身障、遺族会、母子会、ボ連協、日赤、あやめ会、NPOさわやか、ボランティア指定校、睦会、朗読の会、かるがも、サロンおひさま、若佐ふれあい会、スポーツ少年団本部、佐呂間高校ボランティア、佐呂間学習指導室

⑧介護予防・日常生活支援総合事業（生活支援コーディネーター）

・エルダーシステム、ふまねつとを活用した介護予防事業を老人クラブ等に実施

エルダー2回実施 7名参加

2) 幅広い世代の相談窓口やサービス体制の確立

・除雪等のご近所トラブル、スマホ等を悪用した被害の相談、被害防止のための操作説明など、相談・支援内容は多岐にわたり、職員対応はもとより町内外の専門機関や関係職との連携を密に対応している。

3) 新たな制度による問題や様々な住民要望に応えるサービス

・障害者支援、資金貸付等、様々な住民要望に応えるため、関係機関と連携しながら、社協独自の事業推進に努めている

3. 住民に顔の見える社会福祉協議会をめざして

1) 定期的な広報誌の発行、行事や事業、各種福祉サービスの啓発を図る

・社協だよりの発行 年4回 / ホームページの管理運営

2) 地域で懇談や説明会を開催し、社協活動と財源への理解を求めていく

・出前講座 ※現在はエルダーシステム、ふまねつとを主体に開催